

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成25年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	グローバル・リソース・マネジメント	申請大学名	同志社大学
申請大学長名	村田 晃嗣		
プログラム責任者	和田 元		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的にみて、プログラムは順調に進んでいる。新興国での取り組みを日本に還元するため、これらの国と戦略的パートナーシップを構築し、「上から動かすようなリーダー育成」ではなく、「困難にある人々とともに解決法を見出していけるリーダーを養成する」という意欲的なプログラムである。このプログラムのミッションを担当教員が共有し、熱意をもって取り組んでいる姿勢が感じられる。 ・ 事務方のサポートが整備されており、教員と事務職員の連携もスムーズであり、大学組織全体としてまとめてプログラムの運営に取り組んでおり、持続可能なプログラムとして期待できる。 ・ プログラム履修生の個別のニーズに対応する努力が認められる。学生の個別の語学ニーズに対応する語学プログラムの作成、履修生の研究課題に沿ったインターンシップ受け入れ先の開拓、専従のキャリア・コーディネーターによる修了後の進路を含めたキャリア形成の個別相談などに工夫がみられる。 ・ 途上国や困難国でのフィールドワークやインターンシップに備えて、海外での危機管理に関する安全管理講習を企画するなどこのプログラムの特色に応じた学生への配慮がみられる。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の学生のニーズに対応した工夫がされていることは大いに評価されるが、今後履修生の数が増加しニーズが多様化する時に、今の良さを持続していけるかが課題となる。 ・ 文系／理系それぞれの学生の関心に従ってサブ・メジャー科目がつくられている点はよく練られているが、その結果として文系の学生と理系の学生がともに講義を受けたり、活動をしたりする機会が少なくなっているとの印象を受ける。文系の学生が主に用いるキャンパスと、理系の学生が主に用いるキャンパスが離れている等の物理的な問題もあると思うが、文理融合のプログラムとして、文系と理系の交流がより盛んになればよい。 ・ 採択されたばかりのプログラムであるが、学生に対するプログラムの趣旨の十分な理解を進める余地がある。 ・ 優れたプログラムであるので、思い切った広報戦略をたててこのプログラムに最も相応しい学生を積極的にリクルートしていただきたい。今後の発展につながるため、目的意識の明確な学生は、こうした文理融合のプログラムに是非参加したいと思うだろう。 ・ 留学生支援に関して、学生が安心して応募でき、よりよい学生をリクルートすることができるように留学生が日本で学ぶ前の段階で応募できる奨励金等の可能性について検討いただきたい。 			